

平成 29 年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム ございしょの里2号棟

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100413		
法人名	有限会社古川商事		
事業所名	グループホームございしょの里 2号棟		
所在地	岩手県釜石市鶴住居町23地割21番地1		
自己評価作成日	平成30年 1月 4日	評価結果市町村受理日	平成30年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2016_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0371100413-00&amp;PrefCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2016_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0371100413-00&amp;PrefCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 30 年 1 月 19 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あかるく、あたたかくまるく」支援するを基本理念のもとあたたかいホームを目指し日々介護を行っております。
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、沿岸部の震災被害地域にあり、周辺は道路、住宅地の造成作業が行なわれている。新設住宅もまばらで、施設の前は大型トラックが走行する状況の中、併設するサービスとイベントや避難訓練を共同開催するほか、地域のお祭りへの参加や運営推進会議委員の提案による施設のパンフレットを作成し、医療機関に配布するなど、地域へのPRを行い、住民への普及と地域との連携に取り組んでいる。運営にあたっては、法人の理念に基づき、基本方針や目標を定め、職員会議や日々の申し送り確認、共有し、太陽のように暖かく利用者に寄り添い、利用者や家族の意向を聞きながら、自立を支援し、利用者本意のサービスの提供している。また、夜間専門員や調理担当者を配置し、一般職員の勤務を日中に集約するとともに、職員の提案による施設の整備や、日々の利用者への介護対応を相互に注意し合い、利用者の心情を大切に、より良い介護サービスの提供に努めている。
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あかるく、あたたかく、まるく」支援するを基本理念のもと ミーティングで理念について職員全体で話し合い実践につなげています。	開設当初に定めた理念と基本方針のほか、目標を定め、職員会議や日々の申し送りなどで、確認、共有している。太陽のように利用者へ寄り添い、心情を大切に、利用者の持っている能力を生かし、自立への支援を重視したサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と山の神様の祭りに参加したり、鶉住居祭りで外山鹿踊りを見物したり、りんご狩りをしたりと交流しております。	施設の周辺は住宅がまばらで、地域住民との触れ合いが少ないことから、地域のお祭りに参加し、高台の地域の住民と食事を交えた交流を行なっているほか、鹿踊りの見学や、りんご狩りなどを通じて地域との交流を大切に取組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みはしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域の代表者や行政職員の参加をえて、活動状況を報告し委員の皆様からアドバイスをいただいており、いただいた意見を参考にしながらサービスを生かしております。	地域の世話人や元民生員、消防団員などの参加を得て、地域の情報の提供のほか、市の職員からの施策や認知症や家族への対応などの指導、助言を運営に反映させている。運営推進委員の提案によるパンフレットの作成や、りんご狩りなどを実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる	運営推進委員に行政職員がおり、利用者の状況など把握しているほか色々と相談して協力関係を築いております。	市による運営推進会議での助言のほか、市主催の会議や研修会に代表者が出席し、管理者を通じて職員に周知している。行政連絡員からの回覧板による情報の提供のほか、防災マニュアルの作成、災害対策の情報端末を設置し、防災に万全を期している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必ず職員が利用者の見守りを行い居室や玄関に鍵をかけていません。夜間のみ安全確保のため施錠しています。	身体拘束しないマニュアルを作成し、職員で共有し、日々の業務に反映させている。転倒予防のベッドへの鈴やベッド脇のマットの設置は、運営推進会議で説明し、最小限のものとしている。新聞に掲載された他事業所での事例なども掲示し、職員の意識の喚起に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度ではありますが内部研修を行い虐待はあってはならない指導をしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所で地域福祉擁護を利用されている方はいません。全スタッフが専門的な外部研修を受けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約についてはサービスを利用する前に利用者及び利用者家族に契約書、重要事項説明書を用いて説明してその上で署名、捺印をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談及び苦情受付窓口を設けている事を記載しております。見やすい場所の玄関に「投書箱」を設置しています。苦情や要望はありませんが、担当スタッフが敏速に対応するようになっております。	「ごさいしょだより」により、利用者ごとの情報を毎月、写真を掲載し、家族に提供している。家族の来所時に意向を聴くほか、遠隔者に対しては電話で確認している。日々の生活の中で利用者の要望等を把握し、意向に沿った対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員より入浴用椅子と手すりが必要と提案が出され購入するなど、職員の提案が反映されている。	毎日の業務の中で気づいたことなどをミーティングで話し合い、日々の業務の改善につなげている。また、職員の提案により、備品や施設を整備した。なお、業務日程の変更については、家族や本人の体調などに応じ、柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講している。内部研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会に参加している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で本人から話を聞き意向や希望を伺うよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する段階で御家族からも意向を伺うように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する段階で利用者の基本情報や家族からの情報を参考にしてサービスケアの対応に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が一緒に楽しむ事ができるよう心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回の「ございしょ便り」で、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2カ月1回の美容師の訪問による髪のカットや談笑が利用者の楽しみとなっており、馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。	地元のりんご屋、コンビニエンスストアに出かけて、買い物をするほか、デイサービスでの歌謡ショーに参加し、デイサービス利用者との交流を行なっている。また、地域の名所見学や自然との触れ合いに、ドライブで出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で助け合ったり、支え合ったりすることが出来るように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、継続的な関わりを必要、希望される方はいませんが今後継続的な関わりを必要とする利用者や家族がおりましたら、対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を傾聴し希望や意向の把握に努めている。	日々の生活の中で、意向を把握するとともに、利用者は趣味や職員提案の塗り絵、カラオケなどを楽しんでいる。業務への手伝いは、新聞たたみ、洗濯の整理、茶碗ふき、テーブル拭きなど、意欲と持てる能力を活用し、自立への支援を行なっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、本人や家族から話を聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や生活記録そして申し送りノートに記録し、引継ぎ時に口頭で状況報告を申し送る。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は家族本人の希望や意見を取り入れて作成している。	家族の意向を訪問時に聴き取るほか、利用者の意向を日々の生活の中で捉え、職員からの意見と必要に応じて医師からの助言を受け、介護計画を作成している。、毎月のケース会議の結果を踏まえ、3ヵ月ごとに計画を変更し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、生活記録、申し送りノートなどに記録し、引継ぎの時口頭で状況報告で申し送る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内でのデイサービス、ショートステイは実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は家族同行でお願いしています。緊急時は家族の希望を優先し職員が同行するなど支援する事があります。	原則、家族の同伴で入居前のかかりつけ医を、家族の同伴で受診している。同伴が困難な家族は、シルバー人材センターを利用している。医師の希望により職員が同行する場合もある。在宅診療を受けていた利用者は訪問診療で対応している。なお、協力医は、予防接種や認知症の検査、診断を行なっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないのでバイタル測定をし、変化があった時はすぐに病院受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な時は利用者の経過記録を報告し普段の様子は介護サマリーで詳しく伝えるようにしている。(早期退院、計画はしていません)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医と連絡、受診し、医師の判断をあおぐようにしています。	重度化した場合や看取りについては、入居時に説明し、医療機関で対応することとしている。しかし、訪問診療医の指示と家族の意向により、施設で看取った例がある。なお、緊急時には、医師に連絡し、指示を受けて県立病院等で対応することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり職員がいつも閲覧できる場所に置いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回行っており消防署や消防団員が、参加している。	防災マニュアルを作成し、地域の避難場所を確認している。避難訓練は、デイサービスと共同で実施し、夜間想定訓練は、単独で実施した。運営推進会議の委員の参加もあり、消防署員による講評の結果を次につなげている。備品や食材を確保し、災害へ備えている。	水害等の災害時には、地域住民の支援と協力が大切なことから、地域での防災訓練への職員参加など、地域との連携に向けた、施設の取り組みと防災に対する職員の意識の高揚を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや誇りに十分配慮し 言葉使いにも気を付けている。言葉使いや対応については職員の間で声を掛け合いながらなおすように取り組んでいる。	個人情報、ファイルで保管し、職員のみが閲覧できるよう管理している。「ごさいしょだより」やPR用パンフレットへの写真掲載は、家族の同意を得ている。利用者ごとの経験と能力を大切に、地域の文化に根ざした触れ合いと、温かみのある対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とゆっくりと話をしている。利用者に対し見守りの中で服装、食事など自由にさせている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望が実現できる様に意向を伺っていますが、全ての希望に応えられないこともあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に、希望メニューを聞いたり、後片付けを一緒に行っている。	メニューは、職員が作成し、調理専門員による、海産物や山菜など、地域の食材や旬の食材による家庭的な料理を提供している。季節の行事に対応し、ソバ、恵方巻き、寿司、チラシ寿司、誕生日の本人希望メニューなどを提供している。ドライブでの外食やスイカ割りを実施したり、花見では弁当を作り持参している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ひとりひとりの身体状況や咀嚼能力に応じた食事作りに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態で見守り、声掛け、介助を行い口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便、尿の回数チェックを行っていてそれぞれに合わせた排泄支援を実施している。	利用者ごとの排泄パターンを把握し、さりげなく誘導している。各自の自立を支援するため、見守りを主としている。夜間のポータブルトイレの利用者は2名で、ベッドの鈴や足音で察知し、案内している。自立している方は3名で、布パンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品と水分を多く摂るような工夫と運動をしてもらえる様支援しております。一人一人の状態に薬を使用するなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望がない限りは3日に1度の入浴です。入浴中はリラックスでき楽しく過ごせるよう心掛けています。	入浴は週2回午前中に実施している。入浴を拒む利用者はいない。異性介助も問題なく、大型の浴槽に複数名で入浴している。季節のゆず湯、菖蒲湯のほか入浴剤を利用する場合もあり、歌や息子の話など、楽しい入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時、使い慣れている物を持ち込んで頂いております。昼寝や就寝時間は決まってません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームで薬の管理をし、医師の指示で服薬している。服薬リストを介護日誌にセットし職員が目を通す様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	休憩室で歌を唄う入居者、新聞たたみをする入居者、それぞれ好きなものをして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、バスハイクに出掛けたりしています。(桜見物、釜石大観音参拝、紅葉見物、りんご狩り等)	天気の良い日は、復興工事の作業車に気をつけながら、散歩や前庭での日向ぼっこをしている。ベランダでのプランターや畑での野菜作り、花栽培も行なうほか、椎茸のほだ木取りも行なっている。ドライブでの花見や家族との外出など、機会を見て対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で、入居者の預かり金を管理しており、入居者が希望するときは職員が同行し対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したいという入居者はいませんが、家族に電話をかけたいという入居者に職員がついて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔第一に考え快適に過ごして頂ける様、季節の花を飾ったり、季節ごとの飾り付けを作ったりとたのしんで頂いております。	施設は、デイサービスの2階(1号棟)と別棟(1号棟)の2階の建物が連結され、食事用テーブルとソファが設置されている。そのほか小上がりの和室、研修室などが、配置され、十分な空間が確保されている。鉢物や利用者の作品、季節の飾りがバランスよく配置されている。温度はファンヒーター、エアコン、加湿器などで管理され、明るい光の中、思い思いの場所でくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階談話室の廊下に椅子を用意し、思い思いに過ごす場所は確保できております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室が居心地良く過ごしてもらえるよう利用者に今まで使用していた物を持ち込んでもらう様進めています。	居室には、ナースコール、テレビ端子が設置され、2室にはトイレが併設されている。ベッド、タンス、布団などは、使い慣れたものを利用している方もいる。テレビ、家族写真、ポスター、位牌などが配置され、利用者好みの環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全て歩行できる場所に手すりを設置しています。廊下に思い思いに過ごせる場所を設けるなど工夫をしています。		